

佳作

おとうさんが作ってくれた夕ご飯

鹿児島県 西之表市立榕城小学校二年 上園潤

「じゅん、かいものにいくぞ。」
と、おとうさんの大きな声が、家じゅうにひびきました。

おかあさんが、おねえちゃんのすいそうがくのコンクールについていつて家にいないので、おとうさんが、夕ご飯を作るようになったのです。わたしは、おとうさんが、りょうりするところを見たことがなかったので、ちゃんと、夕ご飯を作れるのかなと、とても心ばいでした。おとうさんは、わたしの心ばいとは、まったくはんたいで、こここしてうれしそうです。

お店につくと、わたしは、こんにゃくがやすかったのです、すぐ、かこの中へ入れました。それを見て、おとうさんは、びっくりした顔をしていましたが、ちょっと考えてから、

「こんにゃくがあるから、ぶたじるにしよう、うどんも入れて。」

と、はりきって言いました。
家に帰ると、すぐにおとうさんといっしょにぶたじる作りがはじまりました。

わたしは、にんじんのかわを、かわむきでむきました。だんだんなれてきたら、つい力がはいるすぎて、ゆびをけがしてしまいました。

「じゅん、もう手つだわなくていいから、むこうでしゅくだいをしなさい。」
と言って、けがのところをきれいにカットパンでまいてくれました。

わたしは、しゅくだいをぜんぜんしないで、手つだわなくてよかったかなあ、おいしいぶたじるができるかなあと、そればかり考えていました。

しばらくして、おとうさんが、元気な声で
「じゅん、ごはんができたよ。」
と、わたしをよびました。

テーブルを見ると、ほやほやのゆげのたったいいかおりのぶたじる、それにわたしの大きなお子さまランチまであります。ほっかほかの子キンライスとケチャップをかけたハンバーグのついでいるお子さまランチです。

わたしは、まるでレストランみたいだと思いましたが、食べてみると、本とうにいいでした。わたしは、ごはんの一つぶものこさないでぜんぶ食べおりました。わたしが、

「おかあさんとかわらないほどおいしかった。」
と言つと、おとうさんは、

「おかあさんよりおいしかったんじゃないのかい。」
と、わらいながら言いました。

おとうさんが作った夕ご飯を食べていると、いつの間にかおなががいっぱいになっておかあさんたちがいないこともすっかりわすれていました。おとうさんのりょうりが、おかあさんたちのかわりだったのかなあと思いました。

おとうさん、わたしがさびしくないように一生けんめい作ってくれて本当にありがとう。

